

バードリサーチ ニュース

2006年10月号 Vol.3 No.10

2006. 10.13.

Photo by Tsutsumi Akira

活動報告

ヒクイナ調査 調査結果速報！

平野 敏明

1. 調査地24ヶ所、アンケートは17ヶ所

ヒクイナ調査へのご協力、ありがとうございます。9月20日までに届いた情報をもとに、今年の繁殖期の生息状況について簡単にまとめましたので、お知らせいたします。

夜および早朝の調査にもかかわらず8名の方が現地調査に参加していただき、合計25ヶ所で鳴声再生による調査を実施することができました。府県別の調査地数は、福島県2ヶ所、栃木県9ヶ所、茨城県4ヶ所、千葉県3ヶ所、兵庫県3ヶ所、鹿児島県2ヶ所、沖縄県2ヶ所でした。また、5人の方にはアンケートにお答えいただきました。箇所数を都道府県ごとにみると、秋田県2ヶ所、茨城県1ヶ所、京都府3ヶ所、大阪府2ヶ所、兵庫県7ヶ所、熊本県1ヶ所でした。この他、岡山県1ヶ所から冬期の記録が届きました。



写真1. ヒクイナ。
[Photo by 鈴木博志]

2. 2006年の繁殖期の生息状況

現地調査25ヶ所と2006年の繁殖期の記録が書かれていた6ヶ所のアンケート結果をもとに、生息の有無をまとめました(図)。2006年の繁殖期にヒクイナは、15ヶ所で、少なくとも23羽が記録されました。生息が確認された府県は、福島県、栃木県、茨城県、京都府、大阪府、兵庫県、鹿児島県、沖縄県の2府6県です。このうち、兵庫県や大阪府、京都府、鹿児島県、沖縄県では複数の個体が記録され、京都府ではヒナ連れが、兵庫県ではつがいを確認されました。また、鹿児島県や沖縄県では記録された個体数が多く、特に、鹿児島県肝属郡肝付町では1地域で5羽も記録されたほどです。一方、東日本の茨城県や栃木県、福島県では生息が確認されたものの、1ヶ所あたりの個体数は1羽で、調査を実施しても生息が確認できなかった場所が18ヶ所中14ヶ所もありました。

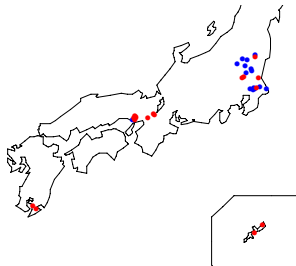


図. 2006年の繁殖期におけるヒクイナの調査地と生息確認地点(●:生息確認, ●:生息未確認)。

今回生息が確認された場所の環境は、水田が10ヶ所、湿原が2ヶ所、河川敷が3ヶ所でした。現地調査で生息が確認された9ヶ所では、植物の草丈は0.5m以下と0.5~1.5m以下がそれぞれ4ヶ所、2.5m以上が1ヶ所で、イネやヨシ、ガマ、スゲ類でした。そして、現地調査で生息が確認されたすべての場所は、地表に10cm前後、深い場所では20cmの水がありました(写真2)。



写真2. ヒクイナの生息環境。
(栃木県藤岡町渡良瀬遊水地)

3. 西日本には、まだ多くいる？

現地調査およびアンケート調査の調査地は、関東地方および東北地方の一部と近畿地方、九州南部、沖縄県とやや地域的に偏っていましたが、興味深い結果がわかりました。その1つは、関東以北でヒクイナが少ないことです。生息こそ確認されましたが、調査地数が多いにもかかわらず、2006年の生息確認地点は5ヶ所と少ないのです。

一方、京都府から兵庫県では、多数生息記録が得られ、まだ多くのヒクイナが生息していることがわかりました。これらの地域を地図で調べてみると、大小の池沼がたくさん点在している地域であることがわかります。

ヒクイナが湿地環境に多いという点は、今回生息が確認されたほとんどの地域で共通していました。すなわち、水田や河川の湿地状の草むらで、草丈がせいぜい1.5mの植物が生育し地表に20cm以下の深さで水が覆っている環境です。ヒクイナの食物は、昆虫類やカエル類、軟体動物、植物の種子とされています。湿田や沼の周りの水辺にはヒクイナの食物となる水生昆虫類などの小動物が多く生息しています。さらに、ヒクイナはイネやスゲ類など草丈の低い植物を使って巣を造るので、営巣環境が多く存在することも理由のひとつでしょう。

4. 今後もヒクイナの情報を募集しています！

今回情報がなかった四国地方や中国地方、九州北部には、近畿地方や鹿児島県などのようにまだヒクイナが多く生息しているのでしょうか。また、東海地方や中部地方ではどうなのでしょう。ヒクイナの情報をお持ちの方はぜひご一報ください。少しでも多くの情報を集めて、より正確な生息状況を明らかにしたいと思います。

ヒクイナ調査は来年も実施する予定です。来年も現地調査、アンケート調査にご協力ください。